



メロン、丸い形は地球に見える？メロンのようにおいしく、その表面の網目のように
緻密なネットワークを広げる月刊情報誌をめざします！

巻頭	多言語による生活相談～コロナ禍での2020年度報告～…… 1	投稿	となりの晩ごはん …… 6
報告	箕面市新改革プラン…その後 …… 3	カレンダー	2021年7月の comm cafe ランチカレンダー …… 7
報告	春の多文化ボランティアセミナー開催報告 …… 4	お知らせ	協会・他団体からのお知らせ …… 8



多言語による生活相談 ～コロナ禍での2020年度報告～(前編)



幅広い事業を進める協会だが、外国人市民のもっとも切実、困難な悩みに取り組むという意味でも、また、そこから見えてくる地域社会の課題に協会が向き合っていくためにも、「外国人市民のための生活相談」はその基礎をなす事業と言ってよいだろう。では、協会にはどんな相談が寄せられ、どのようにこれに対応しているのか。コロナウィルスの感染が続いた2020年度の事業報告からお伝えする。

年間934件の相談に多言語で対応

協会では毎週火曜日の午前11時から午後2時30分まで英語、中国語、韓国朝鮮語(隔週でベトナム語、ポルトガル語)の相談員が待機している。外国人市民ならだれでも相談することができ、相談内容に応じて日本語の書類を各言語で説明したり、ネットでの検索や他機関への問い合わせを行う、悩みを聞いて課題を整理するなどの対応を行っている。また、それ以外の時間には職員が相談に対応する。ほぼすべての職員が日本語に加えて1種以上の言語を話すことができる。2020年度の相談集計によると、これらのスタッフが日本語、英語、中国語、韓国朝鮮語、ポルトガル語、フランス語、ベトナム語、トルコ語、ヒンディー語、モンゴル語、スペイン語で、合計934件の相談に対応した。



▲相談の様子

相談事業の歩み

協会では設立以来、職員が英語と日本語を中心に外国人市民からの問合せに対応していたが、2006年度からは5言語の相談員による週1回の定例事業が開始された。寄せられる質問に情報提供し、悩みを聞いていっしょに考える、という活動から始まったが、その後、協会に寄せられる相談は次第に増加し、また多様化、複雑化していった。

「仕事を失い所持金が底をついた」、「今日、寝る場所がない」、などの緊急性の高い相談や子どもへの虐待や家族内での暴力など、情報提供や傾聴するだけではすまない相談が寄せられるようになった。また、相談者の背景にこうした複合的な課題が絡まるケースも増えた。それらの相談に言語や文化の壁が重なるため、他の機関に引き継いでも、機関も相談者もうまくつながられない…。こうした経験から、他の機関と連携しながら、協会職員が課題解決に向けて奔走する協会の相談事業のスタイルを模索してきた。

2011年度に箕面市で始まった「パーソナルサポートサービス事業」では、協会もその推進協議会に参加し、機関連携・

発行・差出人：公益財団法人箕面市国際交流協会 (MAFGA)

〒562-0032 大阪府箕面市小野原西5-2-36 箕面市立多文化交流センター内

Tel : 072-727-6912 Fax : 072-727-6920 E-mail : info@mafga.or.jp HP : www.mafga.or.jp

賛助会員数：248名 法人会員数：25団体 (2021年6月16日現在)

ケースワークについて他機関との連携のなかで多くのことを教えられた。現在、協会は「箕面市生活困窮者自立支援推進協議会」、「箕面市要保護児童対策協議会」などに参加している。2020年度からは法務省が実施する「多文化共生総合相談ワンストップセンター」として位置付けられた。

一般相談とケース相談

こうした経験から、協会では寄せられる相談に大きく2つに分けた対応を行っている。ひとつは、相談者の質問にその場ですぐに、またはネットや電話で問い合わせなどを行い、回答したり、悩みを聞いて一緒に考えたりする一般相談。1回の相談で「ひとまずの解決」を図るものだ。

もうひとつは、継続して面談を行ったり、他の相談機関などに同行するなどしながら時間をかけて対応するケース相談だ。件数(対応回数)でみると、昨年度は一般相談が558件、ケース相談が376件となっている。相談の受付方法では、電話が422件、来館での相談が414件、メールが56件、その他が42件である。

では、どんな相談が寄せられているのか。その概況を二回にわたってお伝えする。今回は、一般相談のカテゴリーからその内容を見てみよう。

◆一般相談：カテゴリー別内訳

1	生活一般	93件	6	出産・子育て	42件
2	日本語学習	90件	7	通訳・翻訳	30件
3	教育	60件	8	社会保険・年金	24件
4	医療	46件	9	ビジネス	19件
5	雇用・労働	44件	10	住宅	17件
			10	行政手続	17件

寄せられる多様な相談

生活一般は多岐にわたる。例えば、転入出時の電気やガスなどの手続き、オンラインショッピングでのトラブル、国勢調査やNHKの集金など自宅に届く郵便物に関する問い合わせ、バスの乗り方、遺言書の準備など、多種多様な相談が寄せられている。教育では、小中学校での渡日の子どもへのサポートや通訳、高校進学についての相談が多く、子どもや保護者、学校関係者からも相談が寄せられている。医療では、病院への同行通訳や適切な病院をどうやって選んだらよいか、といった相談が多いが、短期滞在中に手術が必要な状態となり、健康保険も適応外であることから高額な医療費が支払えない、といった相談も寄せられる。雇用・労働では、仕事探しについての内容が多い。協会では相談者の状況や希望を聞き取りながら、インターネット上の求

人情報を一緒に見たり、外国人向けのハローワークなど他機関を紹介するなどしている。また、職場でのハラスメントや同僚とのトラブルなどについての相談もある。その他、子どもの発達や育児の悩み、母国で支払った年金制度と日本の年金の合算手続きについて、隣人とのトラブル、転入や世帯合併などの手続きについてなど、その内容は多岐にわたる。

新型コロナウイルスの影響も

また、昨年度はコロナの影響による案件も多かった。収入が減少し、家賃が払えない、生活資金の貸し付けを受けたい、特別定額給付金の手続きのサポート、個人事業で収入を得るための情報がほしい、コロナの影響で母国からの送金が止まり大学の学費が支払えない、などのお金にまつわる困り事。また、感染の不安から、どこで検査を受けられるか、また入院した場合の通訳や費用はどうしたらよいか、今発熱しているがどこに行けばよいか、などの相談なども寄せられている。こうした相談は、外国人市民からだけでなく、外国人市民が利用する病院やNPO、社会福祉協議会などの支援機関からも寄せられた。

相談者の力と社会の壁

相談対応にあたってもっとも大切にしているのは、「相談者のエンパワメント」という視点だ。何が「課題」であるかを決め、「解決」するのはほかならぬ相談者自身だ。自らの人生を生き抜く力は相談者のなかにある。だが、社会的な制約がそれを阻む。相談員の役割は、その社会的な制約を明らかにし、相談者が必要な社会資源にアクセスできるよう条件整備を行って、本来の力が発揮できるようにサポートすることだ。「解決」の代行は、こうした相談者の力を過小評価したり、それを奪うことにもつながる。あくまで相談者を中心に。相談員は伴走者である。

またそのためには、私たちが暮らす社会にある「壁」について理解しておく必要もある。それはことばの壁だけではない。自己責任を求める風潮、国の都合で運用される在留管理制度、申請主義を前提とする福祉行政、つながりが薄れていく地域社会、様々な形で外国人差別…。そこには個人の力だけでは容易に越えられない壁がある。相談者の話を傾聴し、社会の現実とともに向き合う。選択肢を一緒に探し、相談者の次の一步をサポートをする。「答え」も大切だが、そこに至るプロセスそのものが相談者をエンパワメントするものであることはもっと大切だ。

相談者の視点から社会をみる

ある相談者は、持病の薬をもらうために、かつて住んでいた場所にある病院に、何年もの間、何時間もかけて毎月通っていた。日本語での会話ができず、新しい病院に移ると同じ薬がもらえなくなるのではないかと、という不安からだ。何十年も日本で暮らしていても、言葉や文化の壁のために「わからない」ことは多いが、しかし、社会は「わかっている」人を基準に動いている。どこの窓口も「聞いたら答えてはくれる」が、何を聞いたらよいのか、一緒に考えてくれる人はい

ない。さらに、そこに差別的なことばや冷たい対応をされた経験が重なる。孤立した状態のなかで限られた情報をもとに、しかしそれぞれの知恵と努力で相談者は生きている。

相談事業では、相談を通して出会う行政や支援機関の関係者に外国人市民の経験、直面している社会課題を伝え、分かち合う。「ああ、(外国人市民は) そんな風に困るんですね」と驚かれることも多い。そうした地道なやりとりのなかで、地域のなかに理解と変化を広げていく。それが相談事業のもう一つの大事な側面だと考えている。

次回、後編ではケース相談について報告する。(河合)

箕面市新改革スラン…その後

前号では、昨年12月に発表された「箕面市新改革スラン(素案)」の統合をめぐる経緯をお伝えしたが、今号では、その後の動きについて速報をお伝えする。

6月2日に開催された箕面市議会の文教常任委員会で、国際交流協会とメイフル文化財団の統合に関する質疑が行われた。その内容はすべて箕面市議会HPの動画で視聴することができる。

箕面市議会 令和3年第2回定例会 ▶



箕面市議会 HP ▶



質問者の山根議員は、前号の「めろん」の記事に触れながら「財政基盤の脆弱性」、「両財団の目的の違い」などについて質問し、これに箕面市(文化国際室長)が答弁した。

また貝田副市長が、市の基本的な考え方について、次のように述べた。

「文化振興と国際交流の相乗効果を高めるため、二つの財団の統合を進めようというのがベースにあり、これが新改革スランの大きな目標ですが、少し前半のところでは走りすぎていた部分がございます、それを大きな目標としながらも、両財団の良さを引き出すために、まずは船場地区を拠点としたイベントの協業、協働をしながら、文化国際交流の更なる発展の議論を行うプロジェクトチームを立ち上げ、そういう検討を進めていこうとしています。当面はイベントを共同で行い、その中で双方の意識を醸成する。じっくりと取り組んでいこうと、そういうふうを考えています。(中略) まずは、両財団と大阪大学と一緒に協働し、新たな文化国際交流をクリエイティブしていこうと考えています。じっくりと芽を出し、花を咲かせ、実を結ぶというのを少し時間をかけて育てたいと思っていますし、市としても支援をしていきたいと思っています」

さらに、6月4日に開催された協会の理事会では、尾川理事(箕面市人権文化部長)からこの副市長の議会答弁についての報告があり、「統合という形を急ぐのではなく、まずは船場地域を文化芸術国際交流で活性化するために両財団が協働して取り組むということを少し時間をかけて検討していきたい」と説明があったとのことだ。

箕面市の呼びかけで6月15日には「船場地区のまちづくりについての意見交換会」が開かれ、学識経験者やメイフル文化財団を含む市内団体等の関係者が集まった。協会からは岩城次長が出席した。7月11日には箕面市が主催するシンポジウムが開催される予定で、様々な人々の声を受けながら、関係者それぞれが少しずつ動きだしているようだ。

協会の宇治野事務局長はこの件について、「国際交流と文化振興の共通点や相乗効果を様々な視点で議論・検討することは、すべての箕面市民にとってプラスになりえる。どのような手法が最も効果的であるのか、じっくりと検討することが重要だ」と話した。

今後も箕面市や協会の動き、市民団体、ボランティアなど、関係者の様々な声をお伝えしていきたい。(めろん編集グループ)

春の多文化ボランティアセミナー開催報告



協会には、在住外国人の人権保障、多文化共生社会の実現、市民参加による地域づくりというミッションがある。現在は、それを達成するべく多言語による生活相談や居場所づくり、日本語教室、comm cafe やボランティアグループの運営とそこでの交流に向けて外国人市民が活躍できるようサポートし、多様性が息づく地域づくりに努めている。

市民との協働を広く求めるためのセミナーが、5月15日、29日の両日にオンラインで開かれた。

1 日目

『あらためて考える「ともに生きる」 ～社会のあり方とわたしの立ち位置から～』

5月15日開催 講師：栗本敦子さん



▲ 栗本敦子さん
(教え子によるイラスト)

フリーのファシリテーターとして、行政・企業の研修や市民講座、高校や大学で講師を務めている栗本さん。ファシリテーターとは進行役で、参加者に発言を促し、流れをまとめていく人のことである。今回はオンラインでのワークショップが開かれた。

まずは TAKO (他己) トークに挑戦。ペアに振り分けられ、「今、一番行きたいところ」というテーマでそれぞれが発言し、それから四人のグループになって、最初に聴いた相手の内容を紹介するのである。

次に、自分を振り返る作業として「私は…」で始まる文章を10個書き出す課題が続く。それから、親しい人を10人挙げ、選んだ人物の年齢の幅、性別、住んでいる地域、職業、学歴や国籍、障がいの有無などがバラエティに富んでいるか、検証する機会が与えられた。ブラジルの教育者パウロ・フレイレによると、「人は交わる人によってできている」そうだ。筆者の亡き両親は家庭の事情から義務教育しか受けられなかったが、今回、リストに載せた人物はほぼ全員が大学を出ている。教育の機会に恵まれたことを感謝しつつ、他のあり様を加味すると、自分は似たような人とばかり付き合っているのかな、と考えた。しかし、他人の心の底は計り知れないのだから、必ずしも彼らが同質であるとは断言できないのでは、という疑問も残る。一方で、境遇が人を作るのも真実で、それぞれの立ち位置から拓かれる個性が互いに影響を及ぼし合う社会が健全なのだとわかった。

最も難しかったのが、ジャムボード (Jamboard)。グループごとに、画面上でいろいろな文章が書かれた16枚のボードを、内容がアウトかオーケーかで振り分けるのである。誰が読んでも差別的な表現はともかく、「さすが！〇〇はブラジル出身やもんね。サッカーうまい！」「わたしも外国人の友達がほしい」「中学校の公民の授業で先生が『18歳になったらちゃんと選挙に行きましょう』」「タイの方なんですわね！タイ語、しゃべっててください～」など判断が難しい文言もあって、グループによって仕分け方も違っていった。外国人とは、どういうイメージか。日本で生まれて日本語しか話さない外国ルーツの人もいるのだから、外見のみでの判断は難しい、との意見が出た。

胃腸科 内科 外科 肛門科 リハビリテーション科

おざわクリニック

診療時間	月	火	水	木	金	土
am9:00~12:00	○	○	○	○	○	○
pm1:00~3:00(胃カメラ)	□	□	□	□	□	□
pm5:00~7:30	○	○	○	○	○	○

※診療開始 30分前から受付します。
 ■胃カメラは予約制です。
 ■休診日：土曜日午後・木曜日・日曜日・祝日
 ■http://ozawa-clinic.world.coocan.jp/
 【住所】〒562-0023
 箕面市栗生間谷西3-7-9 シャトー野間1F
 阪急バス停留所「空の前」スーパーマルヤス向い
 □無料駐車場 有

TEL: 072-730-0721

fairtrade shop & cafe

エスパーロ
能勢
espero osaka

フェアトレード雑貨と古民家カフェ

豊能郡能勢町地黄 476

営業時間：金～月 11:00～17:00

http://espero-osaka.com/

箕面市国際交流協会の
多言語による生活相談窓口

電話 072-727-6912
(日本語・英語)

メール soudan@mafga.or.jp

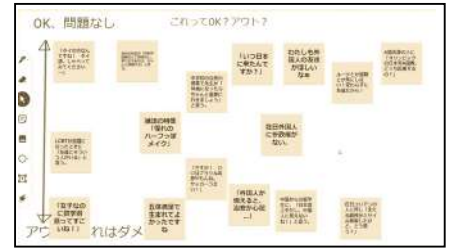
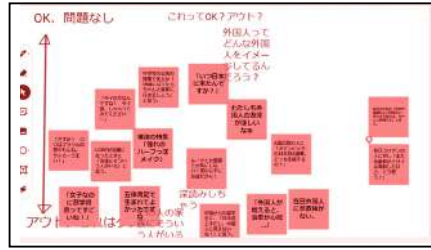
子育てや教育、仕事、医療、福祉、在留資格など、生活での悩みや困りごとに対応します。秘密厳守。相談は無料です。

日時：火曜日から日曜日 9:00～17:00

受付方法：来館、メール、電話

対応言語：日本語、韓国・朝鮮語、中国語、英語、ポルトガル語

場所：箕面市立多文化交流センター



▲ 各グループのジャムボード

同じ文言が載ったシートを、グループ内の人と対話しながら「アウト」「セーフ」か、振り分けていく。グループごとに、捉え方もそれぞれ。各グループからの発表の後、栗本さんの丁寧な解説が入った。

栗本さんは言う。「『マイクロアグレッション』とは、ささいな、見えにくい攻撃のこと。言った本人の意図は問わず、言われた側が、紙で指を切るように、血は出なくてもその小さな傷の重なりでダメージを強く受けることがある。マジョリティとは、『気づかずにいられる人』のことである。そうではなく、支援する人が味方として非当事者でありながら問題を理解し、共感をもって行動に移したい。マジョリティが社会のあり方を変える必要がある。」

2日目 『そもそも「ハーフ」って呼び方ってどうなの？ ～多文化共生とレイシズムを考える～』

5月29日開催 講師：ケイン樹里安さん



▲ ケイン樹里安さん

社会学者のケイン樹里安さんは、大阪市立大学都市文化研究センター研究員、WEBメディア HAFU TALK 共同代表として活躍している。セミナーが始まってすぐに、「ハーフ」と聞いて誰の顔を浮かべるか、と尋ねられた。テレビで観るタレントやスポーツ選手。その中で支配的なのは「白人」とのハーフで、ハーフ顔になりたいと思う人には、鼻プチ（穴に入れて高く見せる装具）・カラーコンタクトで白人に近づきたいという願望が目立つ。白人身体性はメディアで支配的な美の基準なのだ。



▲ HAFU TALK web サイト
<https://www.hafutalk.com/>

「ハーフ」とは厄介な言葉で、「半分」「ネガティブさ」と切り離せない。長く日本社会で流通してきたが、差別的だということで「ダブル」「ミックス」という言葉が使われはじめています。当事者でも、人によって「自分はハーフでええねん」とか「複数のルーツがあるからミックスがしっくりくる」とか、捉え方は様々である。ケインさんは、アメリカ出身の父親に「ミックス」は「ピュア」の反対語としてナチの思想を彷彿させる、と言われたことがあるらしい。ここで大事なことは、第三者が他者をカテゴリー化する「名指し」ではなく、当事者自身がカテゴリー化する「名乗り」であり、それらは別の行為である。他者にラベルを貼り、線を引くことは暴力になる。ベターなやり方は、名指す前に「待つ」ことだ。筆者も「ハーフ」という言葉を使ってきたが、その「可傷性」に無自覚だった。相対する時にくれぐれも萎縮せずに、「待つ」術を養いたいと思った。

交差性（インターセクショナルリティー）の問題も取り上げられた。身体形質、出生地、生育地、言語、国籍、ジェンダー、セクシュアリティ、宗教、階層などの諸要素が交差することで独特な抑圧の状況がもたらされる概念で、例えば一口に「ハーフ」の問題経験といっても同じものはない。非白人との「ダブル」「ミックス」である人々もいるし、環境の違いもあるから、苦しさは個別のものなのだ。ぜひ、ネットの HAFU TALK で当事者の話にもあたって欲しい。子ども時代から大人になっても周りから攻撃を受け続け、瑞々しくあるべき魂が時に萎れゆく苦しさにふれることができるだろう。

両セミナーを通じて、社会的マイノリティの人も堂々と思いを口にでき、ルーツに関わらず互いの自己決定権を尊重し、傾聴し合うことで真のコミュニケーションが可能なのだとの認識を新たにさせられた。（山下）

ケインさんのお話の中で紹介された書籍



▲『ふれる社会学』
ケイン樹里安 編著
上原健太郎 編著



▲『あおいらくだ』
茂田まみこ・長村さと子 作
楓真知子 絵



▲『「ハーフ」ってなんだろう?』
あなたと考えたいイメージと現実』
下地ローレンス吉孝 著

投稿

となりの晩ごはん

**よそのお宅の食卓、のぞいてみたい！
読者の普段の食卓風景をご紹介します。**

スロファイル
投稿者

野崎ターラー 協会職員

めろんのコラム「アートの小箱」でも
おなじみ。

「わたし」は一番小さな「文化」の単位。
さまざまな食卓から見えてくるストーリーと、その「味わい」をお届けします。

今日の晩ごはんは、コムカフェの常連さんである「定ちゃん」の差し入れてくれたグルジア料理(ロビオ=豆と玉ねぎの前菜と、ハルチョー=トマト味のスパイシーなスープ)の残り物。

昔、ひとり暮らしをしていた頃は、一度に3品つくる程まめに自炊していたが、ずっと同じ料理を食べ続けられないといけないのが苦痛で、わびしかった。

30代半ばでうつ病を患ったときは、1か月間、身体が「いも粥」しか受け付けなくなった。最初はうつだと気づけなかったが、とにかく食欲が出ない(味覚も鈍くなった)。どんどん痩せて、職場の患者さんから「おかしいよ」と言われたがピンとこなかった。睡眠時間もどんどん短くなっていったのに、若かったからか、普通に動けてしまっていた。

自分はスーパーウーマンかと思っていた。こんなに寝ず、食べずなのに、仕事(鍼灸師)はきちんとできている自分はすごいと。友人からは、「異常だから仕事を辞めて」と注意された。自分はもっと働けると思ったが、周囲の反対にあい、まもなく辞めることに。それから後は記憶がとんでいる。痩せたのは(身体だけでなく)、心だった。孤食は心をどんどん蝕むということが身に染みた経験だ。

以来、すっかり自炊しない生活になったが、いまは、この日のような残り物のご飯でも、誰かのつながりが感じられて味わい深い。気の置けない人とたわいのない話をしながら食べるご飯が、何よりも食事をおいしくするスパイスだと感じる今日この頃である。



7月
July



comm cafe ランチカレンダー

コムカフェ

火～土
★朝カフェ… 09:30～11:30
★ランチタイム… 11:30～14:00
売り切れ次第終了します
★午後カフェ… 14:00～17:00

日・祝日
★世界の朝ごはん (ドリンク付 660円)
…10:00～13:00 *ランチはありません
★ランチセット (ドリンク付 510円)
…09:30～15:00 *ランチはありません

まん延防止重点措置により、7月中はテイクアウトのみの営業となります。お弁当のご予約お待ちしております！

●ご予約 (comm cafe 直通) 072-734-6255

☒… スナック or スウィーツの日 ☑… カフェで開催するイベント

各種イベントの詳細は「めろん」P 8・9をご覧ください。

comm cafe からお知らせ

平日もモーニングははじめました！ 9:30am～11:00am L.O.

- ◆ブリヌイセット 510円◆
- ◆ドラニキセット 510円◆

ブリヌイはロシアのクレープで、中はマッシュポテトとひき肉が入っています。ドラニキはベラルーシのじゃがいもパンケーキ。ピクルスとヨーグルトがつけます。いずれもドリンク(コーヒー、紅茶、ジュース)をお選びいただけます。

げつようび	かようび	すいようび	もくようび	きんようび	どうようび	にちようび
	世界をつまみ食い！ ～ comm cafe 世界の家庭料理～ フルメニュー 880円 限定メニュー 770円		1 ノックさん 《タイ》	2 ズィアさん 《ニュージーランド》	3 アイリンさん 《イラン》	4 ランチセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん 《インド》 10:00～13:00
まん延防止重点措置により、コムカフェはテイクアウトのみです。						
5 休館日	6 コスさん 《タイ》	7 李さん 《コリア》	8 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	9 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	10 チャレンジ カフェ フランクリンさん 《キューバ》	11 ランチセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん 《ベラルーシ》 10:00～13:00
まん延防止重点措置により、コムカフェはテイクアウトのみです。						
12 休館日	13 ノックさん 《タイ》	14 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	15 アイリンさん 《イラン》	16 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	17 チャレンジ カフェ ルーパさん 《インド》 ☑ 18:00～20:00 みのお cinema 「0円キッチン」	18 ランチセット (9:30～15:00) ☑ 9:30～15:00 みのおいよいよクラス 「野草の天ぷらやくん製を食べる」
まん延防止重点措置により、コムカフェはテイクアウトのみです。						
19 休館日	20 いずみさん 《ベトナム》	21 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	22 ランチセット (9:30～15:00) [祝日] ☒ MAFGA スナック	23 ランチセット (9:30～15:00) [祝日] ☒ MAFGA スナック	24 アフドゥさん 《セネガル》	25 ランチセット (9:30～15:00) 世界の朝ごはん 《フィリピン》 10:00～13:00
まん延防止重点措置により、コムカフェはテイクアウトのみです。						
26 休館日	27 ☑ MAFGA 食堂 協会主催事業のため ランチはお休みです。	28 ランチセット (9:30～15:00) ☒ MAFGA スナック	29 フランクリンさん 《キューバ》	30 ホーさん 《香港》	31 ジェニーさん 《アルメニア》	
まん延防止重点措置により、コムカフェはテイクアウトのみです。						

★新型コロナウイルス感染拡大防止対策のため変更になる場合があります。最新情報は、Facebook を確認ください。

- ベジタリアン、ハラル、アレルギー対応については、カフェのスタッフまでお気軽にお尋ねください。
- メニューやシェフは変わることもあります。また急きょ、協会主催事業により貸切になることもあります。
- 詳細は、Facebook をご覧ください。https://www.facebook.com/mafgachallengecafe



国際交流協会 (MAFGA) からのお知らせ

下記についての問合せ・申込みは (公財) 箕面市国際交流協会まで
 ※開催場所: 箕面市立多文化交流センター

電話: **072-727-6912** FAX: **072-727-6920** E-mail: **info@mafga.or.jp**

定例イベント	上映会 7/17 (土) 18:00 ~ 20:00	みのお cinema 上映会 毎月1本、視点を豊かにする映画を上映 【上映作品】 0円キッチン 監督: ダーヴィド・グロス、ゲオルグ・ミッシュ 2015年 / オーストリア / 81分 フードロスをなくすため! 廃油で走るキッチンカーが欧州5か国をめぐる、捨てられるはずだった食材が生まれ変わる!	定員 : 10名 (要申込)  場所 : comm cafe 参加費 : 一般 700円 賛助会員・大学生以下 無料 (+ドリンク代 300円~)
	読書会 7/18 (日) 10:30 ~ 12:00	多文化共生理解のための読書会 「わたしもじだいのいちぶです 川崎桜本・ハルモニたちがつづった生活史」を読む。 本を読んで集まり、感じたこと、考えたことを話しましょう。	定員 : 10名 (要申込) 場所 : comm cafe  参加費 : 無料
	読書会 7/11 (日) 14:00 ~ 16:00	Sunday Book Review 英語の原書を一緒に読みましょう! 読む本: The Remains of the Day / 日の名残り 著者: Kazuo Ishiguro / カズオ イシグロ	場所 : ボランティア活動室 参加費: 300円 + ドリンク代 申込み: 初参加の場合要申込
	多文化体験 7/3 (土) 13:30 ~ 15:30	多文化体験・交流・学びクラブ まふがっこ 2021年度も、地域の子どもたちを対象に、地域に暮らす外国人市民との交流を通して、多文化を体験する連続講座で、直接文化にふれよう! 【テーマ】 モンゴルの文化と遊び 講師: ウルジーバドラフ・オトゴンスレンさん 次回は、8/7 (土) ベヘリンさん 【韓国の文化と遊び】 (申込 7/22 ~)	対象 : 小学生 定員 : 10名 (要申込) 場所 : 講座室
<h2>他団体からののお知らせ</h2>			
オンライン 7/11 (日) 10:00 ~ 12:00	箕面船場における 文化芸術国際交流のまちづくりシンポジウム 船場地区に文化芸術劇場や新しい生涯学習センターが開館したことをうけて、文化芸術と国際交流を中心に据えたまちづくりを考える。 シンポジスト: 大迫弘和 (武蔵野大学教育学部教授) 竹村景子 (大阪大学外国語学部長) 木田真理子 (プノワ賞受賞ダンサー) 上島一彦 (箕面市長) 他	場所 : オンライン (YouTube 配信) 参加費 : 無料 主催・申込: 箕面市役所文化国際室 TEL: 072-724-6769 FAX: 072-724-6010	
持ち込み企画 7/18 (日) 9:30 ~ 15:00	みのおわいわいクラブ ~野草の天ぷらやくん製を食べる~ 箕面の山中に自生する、野草について学んでみませんか。 天ぷらや、くん製をつくって、野草を研究する。 ◎講師 谷垣文貴子 (野草の天ぷら研究家) ◎講師 江崎記見 (くんせい料理研究家)	定員 : 20名 (要申込) 場所 : comm cafe  参加費 : 1,000円 主催・申込: みのおわいわいクラブ 080-3773-0906	

唐木幸子バレエスタジオ ~箕面の地で40年の歴史~

*バレエコース: 「ロシア国立ペルミバレエ学校日本校」のバレエ教授法取得証明書(Dipolma)や、日本徒手療法師会より「徒手療法師」の資格認定を与えられた姿勢調整師でもある指導者が、丁寧に分かりやすく指導致します。「バレエは芸術」として長く続けられるように、また中高生には学業と両立できるよう配慮しています。3才~80才位の年齢層まで、目的に合わせて気軽に楽しく始められます。

*健康コース: 徒手療法師の資格を持ったバレエ指導者(姿勢科学士)が健康維持を目的とした姿勢調整を致します。

〒562-0041 箕面市桜 4-1-24 阪急牧落駅西側右斜め前 (駅より30M)
 072-721-6300 / 721-2576 <http://www.karaki-sachiko-ballet.com/>

(公社) 日本バレエ協会会員・AODT会員



他団体からのお知らせ

問合せ・申込みはそれぞれの各団体へお願いします。

コロナウイルス感染拡大防止のため、イベントの内容が変更、延期、または中止になる可能性があります。

<p>まなびカフェ 7/9 (金) 18:30 ~ 20:00</p>	<p>バベル☆カフェ2 「知っとこ！西アジア」 「レバノン」と聞いて、何をイメージしますか？カルロス・ゴーン氏の報道や、首都ベイルートでの大規模な爆発などのニュースで、初めて名前を聞いた人も少なくないのではないのでしょうか。レバノン出身の留学生から直接話を聞いてみませんか。◎レバノン出身の大阪大学留学生</p>	<p>場所 : らいとびあ 21 (箕面市萱野 1-19-4) 参加費 : 100 円 (資料代など) 主催・問合せ : らいとびあ 21 072-722-7400</p>
<p>オンライン 7/9 (金) 19:00 ~ 21:30</p>	<p>第 80 回教育カフェ・マラソン～永遠瑠マリールーズ 教育や生き方について対話の文化を市民レベルで深め広げたいと 2012 年にスタート。話題提供者からのお話の後、参加者同士での「対話」を通し、考えを深める。 話題提供者: 永遠瑠 (とわり) マリールーズ (ルワンダの教育を考える会) 1994 年のルワンダ内戦を経験。ルワンダ・キガリに学校を設立し、戦争で心身ともに傷ついた子どもたちを支援している。</p>	<p>定員 : 35 名 場所 : オンライン (Zoom) 参加費 : 700 円 主催 : 認定 NPO 法人コクレオの森 https://cokreono-mori.com</p>
<p>連続セミナー 7/10 (土) 10:00 ~ 12:00 その後、隔週で開催</p>	<p>第 4 期 梨の木ピースアカデミー 在日コリアンは今どこに？沈黙と語りの現在地 (全 6 回) 第 1 回「在日コリアン」とは誰か？ 講師: 郭辰雄 / コリア NGO センター代表理事 ◆第 2 回 7/24 「在日コリアンの形成史—私の家族の物語」 講師: 朴沙羅 ヘルシンキ大学教員 第 3 回以降については HP 参照ください。その様々なテーマの企画あり。</p>	<p>定員 : 50 名 場所 : オンライン (Zoom) 参加費 : 各 2,000 円 複数講座参加の場合は、割引あり 共催 : 梨の木ピースアカデミー コリア NGO センター https://apply.npa-asia.net</p>
<p>マルシェ 7/10・24 (土) 11:00 ~ 15:00</p>	<p>よつ葉の移動販売車ミニ・マルシェ 移動販売車よつ葉の御用聞き「しゅんの助」が、減農薬・無農薬野菜、果物、無添加食品、乳製品、豆腐、調味料、お菓子など、おいしいものをいっぱいついで、やってくる！こだわりの屋台も出店予定。 詳細は FB をチェック！ https://www.facebook.com/shibaraku2018/</p>	<p>場所 : 芝楽広場 (箕面市萱野 2-11-4) 共催 : 関西よつ葉連絡会 池田・豊中・箕面共同購入会 072-727-7780 510deli 072-720-6636</p>
<p>映画上映 7/10 (土) ～ 上映時間は映画館に確認を</p>	<p>映画「東京クルド」～夢見てしまった 絶望の国で～ 難民認定率が 1% に満たない日本で難民申請を続けるトルコ国籍のクルド人きょうたいを 5 年以上にわたって取材したドキュメンタリー。故郷での迫害を逃れて小学生の頃に日本に渡るも、日本社会の無理解によって教育の機会を奪われた「不法滞在者」である 2 人の青春と「日常」が映し出される。 監督: 日向史有 / 2021 年製作 / 103 分 / 日本 / 配給: 東風</p>	<p>場所 : 第七芸術劇場 (淀川区十三本町 1-7-27) 参加費 : 一般 1,800 円 各種割引あり 上映時間は、劇場に確認を 問合せ: 第七芸術劇場 06-6302-2073 http://www.nanagei.com</p>
<p>イベント 7/12 (月) 14:30 ~ 16:00</p>	<p>パレスチナの手仕事のお話 with 展示販売会 日本から 9000 キロ離れた中東のパレスチナから、心のこもった手仕事が届きました。既に興味をお持ちの方も、「パレスチナってどこだろう」とお思いの方もぜひいらしてください。現地滞在経験のある代表とまったりお話しませんか？ 会場での参加、オンラインでの参加も OK !</p>	<p>定員 : 10 名 (+オンライン) 場所 : 縁 (池田市城南 1-8-23) 参加費 : ワンオーダー制 主催・申込 : 架け箸 https://kakehashi-palestine.com/</p>
<p>追悼イベント 7/26 (月) 18:30 ~</p>	<p>7.26 施設障害者虐殺 5 年目の追悼アクション 2016 年 7 月 26 日、神奈川県相模原市にある障害者施設やまゆり園で、19 名の命が奪われ、26 人が重軽傷を負った。あの日から 5 年。今年も、追悼アクションが行われる。 18:30 ~ スタンディングとスピーチによるアピール。(手話通訳あり) スタンディングエリア付近を移動 / うめきた広場周辺で解散</p>	<p>場所 : 大阪梅田ヨドバシカメラ前 呼びかけ : 726 追悼アクション有志 連絡先 : prayforsagamihara726@gmail.com</p> 

coupe de Minami

スクール coupe de MINAMI 南プロカッティング研究所

町屋で楽しく洋服をつくってみませんか？



ボディに布を直接
のせて服をつくって
みましょう！
(立体裁断)

南正枝 プロフィール (略歴)

昭和 42～45 年 フランス・パリの洋裁学校にて立体裁断、
デザイン等を修得

昭和 45～47 年 カネボウ Christian Dior アトリエでデザイナー

昭和 47 年以降 大学および専門学校での講師経験多数

◆リフォームや服のお仕立てもいたします！ ◆パターンや立体裁断も教えます。 ◆詳細はホームページあるいは下記まで直接お電話ください！

●問合せ : 〒562-0012 箕面市白鳥 2-2-30 電話 / FAX 072 (721) 4151
E-mail info@coupe-de-minami.com URL <http://www.coupe-de-minami.com>

めろん編集ボランティアスタッフ 募集中!

「めろん」は箕面市国際交流協会と協会ボランティアが協働し、地域の多様性を高める情報をみなさんにお届けしています。取材に行ったり、記事を書いたり、誌面をいっしょに作るボランティアを募集しています。イベントやセミナーの企画や勉強会なども行います。多文化共生に関心のある方、ぜひご参加ください!! 会議の日程は変更になる場合がありますので、参加される際は、事前に協会までお問合せください。

めろんの広報にご協力ください!

「めろん」をより多くの方に知ってもらうために、自治会やPTA、同窓会、研修、セミナーや授業など様々な催しで、地域から多文化共生を考えるためのツールとして配ってくださいますか。置いてくださるお店なども大歓迎! フォームから必要事項を記入ください。



編 集 後 記

猛烈な雨(80mm/時間以上)が降る頻度はここ30年で1.7倍に増えている。そのシーズンが到来したが、地震も含め、しばらく災害がないと気が緩む。市報「もみじだより」が毎号、防災について呼びかけているのも頷ける。

その「もみじだより」4月号(2021年)の「心の樹」に「外国人市民のかたが安心して暮らせるまちをめざして」という記事が出た。また、約2年前には「やさしい日本語」で外国人のかたに話しかけてください」という記事が出て、防災での「やさしい日本語」の重要性にも少し触れている(2019年10月号)。「もみじだより」は10年間市民に防災を呼びかけてきたが、外国人市民の防災に関連しての呼びかけは、この二つの記事が初めてと思う。良い共生社会を作るには、防災で日本語の不得手な外国人にも目を向ける必要がある。今後も時々言及していただけたらと思う。

「豪雨などでの避難指示の徹底」、「震災などの災害後の安否確認」は共に命に関わることで、そこでは近所の人たちと外国人市民の連携が欠かせない。良い連携とやさしい日本語で彼らの多くは救われよう。ただ、外国人市民はいらるので、やさしい日本語や英語でのコミュニケーション(昨年、「市民安全メール」の英語版ができた)が難しい場合もある。

私案であるが、対策として、例えば言語の問題で、ハザードエリアに住む外国人で個別の避難指示連絡を希望する者、あるいは安否確認で、ある言語での確認を希望する者などを毎年調査し、把握しておくことが必要ではなからうか。そういう希望者には近所の人、協会、外国人防災アドバイザーと一緒に対策を話し合っておき、事が起れば三者連携して対処する。多様な彼らにはきめ細かい対応を厭わず、まず調べて彼らの実態を掴むことが「安心して暮らせるまち」をめざす第一歩だと思う。(荻野)

アクセスマップ



バス オレンジゆずるバス

- (平日・土曜) 黄ルート「多文化交流センター前」
または赤ルート「小野原南」から西へ約550m
- (日曜・祝日) 緑ルート「小野原西五丁目」から西へ約200m
※「多文化交流センター前」には停まりません。

阪急バス

出 発	バス番号	最寄バス停
千里中央 北千里方面から	30, 55, 56 58, 59, 66	① 小野原 ② 小野原西
	175, 176	③ 小野原南
	70	④ 小野原西5丁目
	70, 78	⑤ 関西学院千里国際キャンパス
阪急石橋から JR茨木方面から	92	① 小野原 ② 小野原西

「めろん」編集スタッフ

【ボランティア】井嶋眞佐子、荻野克彦、崔聖子、山下三千世、結城なお、鷲尾則昭

【事務局】宇治野清隆、岩城あすか、河合大輔、末原真紀、中村由紀、鳥羽山良平

問合せ：(公財) 箕面市国際交流協会 〒562-0032 箕面市小野原西5-2-36 多文化交流センター

Tel : 072-727-6912 Fax : 072-727-6920 E-mail : info@mafga.or.jp

HP : www.mafga.or.jp FB : facebook.com/Mafga みのお多言語ポータル : http://portal.mafga.or.jp/